循環バスの利活用を通じた中心市街地活性化における商店街の役割

秋田大学　学生会員　○丸山毅人
秋田大学　正 会 員　　木村一裕
秋田大学　正 会 員　　日野　智
秋田大学　学生会員　　鈴木　雄

1. はじめに

現在、少子高齢化、モータリゼーションの進展、郊外大型店の増加、多様化する生活スタイルにより中心市街地の衰退が進んでいる。中心地の商店街の衰退は、街のイメージや自動車を利用することができない人に与える影響が大きい。こうした中、様々な取り組みで商店街を活性化させようというものの一つに循環バスと商店街との連携が考えられる。

本研究では秋田県大仙市花火通り商店街と大仙市が運営する循環バスを対象として両者の連携に着目し、まず商店街の持っている地域の役割と商店街の循環バスに対する意識を把握し、商店街と循環バスの連携について考察・検討することを目的とする。

2. 循環バス及び商店街の背景

（1）大仙市循環バス

大仙市では中心市街地に賑わいを創出する目的で大曲地域の市街地にある主要施設を循環する循環バスを運行している。運行当初は料金が均一 100 円で運行していたが、平成 20 年 4 月に原油高騰により料金が 200 円になったことと、同年 10 月に駅前主要施設であったジョイフルシティ大曲が景気の悪化により閉店したことが影響して、平成 21 年度は平成 19 年度のおよそ半数まで利用者が減少している。そのため市では循環バスの運行内容再編を検討している。また現在、商店街との連携施策は行われていない。循環バスの運行内容を表-1、循環バスの利用者状況の推移を図-1 に示す。

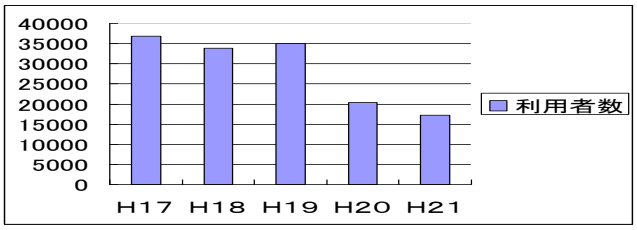

図-1　循環バス運行内容

表-1　循環バス運行内容

運行開始	平成 13 年 8 月
料金	200 円均一料金
距離/所要時間	9.7 キロ/40 分
運行便数	8 便/日　午前 9 時～午後 4 時

（2）花火通り商店街

大仙市の中心市街地は医療、商業、交通、行政などの都市機能が集積し、地域の経済・社会の中心的な役割を果たしてきたが、近年その活力や求心力が低下し、衰退・空洞化が顕著となっている。中心地市街地の現状について表-2 に示す。

表-2　中心市街地の現状

中心地歩行者数	H6　16928 人/日　⇒H24　2924 人/日
小売業事業所数	H6　210 事業所　⇒H19　101 事業所
小売業従業員数	H6 1374 人　⇒H19　688 人
小売業年間商品販売額	H6　27658 百万円　⇒H19　9862 百万円
販売効率	H6　0.889　⇒H19　0.494
花火通り商店街数	H12　78 店舗　⇒H24　58 店舗

花火通り商店街では商店街の集客を目標に多くのイベントを開催しており、商店街だけでなく地域の他団体とも連携して行われている。地域住民との交流についても、特に地元の小中高生と商店街がふれあえるような企画が行われている。また商品券やクーポン券といった商店街が負担するような企画も多い。商店街での主な取り組みについて表-3 に示す。

表-3　商店街での主な取り組み

・土屋舘わいわい広場 商店街の賑わいの創出を目的として毎月第四土曜日にフリーマーケットやイベントを開催
・ボランティアポイントサービス 地域交流施設でボランティアを行った人にポイントを進呈し、10ポイントたまれば商店街店舗でサービスの提供
・ダイセンクエスト 大仙市内の小中学生を商店街に集めて商店でゲームやクイズ、探検をクリアしながらゴールを目指すイベント

キーワード：循環バス、公共交通、商店街
連　絡　先：〒010－8502　秋田市手形学園町 1－1、TEL(018)-889-2368、FAX(018)-889-2975

3. バス利用者のニーズ

本研究では、循環バスが運行する地域において利用者および非利用者を対象としたアンケート調査を行った。アンケート調査の概要を表-4 に示す。おもなアンケート項目としては、循環バスの評価、満足度および利用促進施策に対する評価である。商店街との連携については、とくに買い物バス券を取り上げている。買い物バス券は協賛店で一定金額買い物するとバス券をもらえるというもので、秋田県大館市や、茨城県土浦市などで実施例がある。

表-4 ルート周辺住民への調査概要

調査概要	配布・回収状況	配布：2000　回収：523 （回収率26.15%）
	年齢構成比	10代：1%　20～30代：11%　40～50代：26%
		60～70代：52%　80歳以上：10%
	主な調査項目	＜利用者への質問＞ バスの評価、満足度 ＜非利用者への質問＞ 循環バスを利用しない理由、現在のバスの評価 □
		利用促進施策案について 運賃割引サービス：1日乗車権、買い物バス券回数券 利用促進への住民参加について 運行内容再編にあたって重要だとおもうこと

循環バスの運行再編に関して要望が大きいのは「運行ルートの再編」と「低料金化」であることがわかった。具体的な意見としては、1 方向にしか運行されていないので逆周り便運行の希望、現在の運行ルートから郊外にあるスーパーやイオンモール大曲まで運行すればよいという意見が見られた。

買い物バス券制度について循環バス利用者に聞いた項目では、循環バス利用頻度が「週に数回」・「月に数回」の回答者と一日の循環バス利用回数が「１回」・「２回」の回答者が買い物バス券制度について６割以上「利用したい」「店舗によっては利用したい」と回答し、循環バスと商店街の連携にプラスな面が見える。アンケート結果について図-2、図-3 に示す。

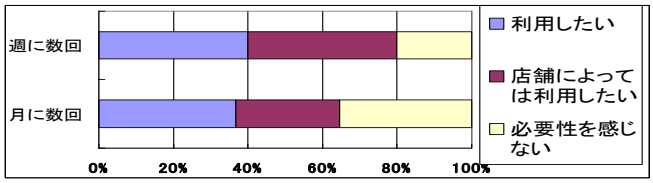

図-2 循環バス利用頻度と買い物バス券制度

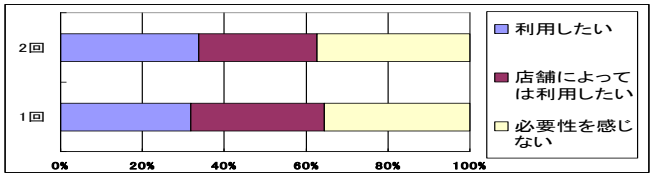

図-3 循環バス1日利用回数と買い物バス券制度

4. 商店街としての対応

本研究では循環バス利用促進における商店街の役割について、商店街の方へのインタビュー調査とアンケート調査を実施している。商店街の方へのインタビューでは、商店街の目標は核家族化が進むなかで高齢者や子供など、地域の人たちが交流できる場所として、商店街がその役割を担うことだということがわかった。それにむけて商店街の連携だけでなく他団体、他地域の人や若い世代との連携を強めていて、商店街だけが発展すればよいのではなく地域全体が盛り上がらなければいけないという考えを持っていた。まちづくりや地域貢献に関する考えが深いことがわかった。

また商店街へのアンケート調査では、表-5 に示すようなアンケート調査を行った。このアンケートでは循環バスについて、商店街としてこれから連携施策についてどんなものなら考えられるか、どれだけ関心をもってくれる人がいるかについて、また地域貢献の役割については、商店街に所属している方にどれだけの意識があるかを明らかにする予定であり、今後の調査については講演時に発表する。

表-5 商店街調査概要

調査概要
＜主な調査項目＞ (1)現在の循環バスの運行内容、運行状況についての商店街の意識、関心（期待すること、不満なこと、考えていること） 質問項目：訪問手段としてどう思っているか、バス運行が商店街の活性化につながったか、循環バスが商店街にもたらす効果についての質問 (2)商店街と循環バスの新たな連携施策への関心度、連携施策案に対する検討 質問項目：買い物バス券制度への関心、自身の店舗または商店街で行えると思う循環バスの利用促進を考えた支援策についての関心 (3)花火通り商店街が地域に持っている地域貢献の役割についての意識、考え 質問項目：街の顔・イメージ、地域商業の中心、賑わい創出の場交通弱者の買い物の場、地域コミュニティの場、伝統・文化を伝える場、イベント交流の場、についての意識 ＜調査地域＞ 花火通り商店街（58店舗） ＜調査方法＞ アンケート調査、ヒアリング調査

5. まとめ

花火通り商店街では多くの施策を行っていることから新たな施策を行う際の土台があることがうかがえる。また商店街の方たちは商店街としてのまちづくり・地域貢献に関する意識や関心が大きく、循環バスに関する商店街側の意見を聞きだすことで、商店街活性化のための循環バスの利活用を通じた新たな連携施策案の提案ができると考える。